—生きることは分かち合うこと、弱き者と—

PHD LETTER

PEACE,HEALTH＆HUMAN DEVELOPMENT

PHD LETTER
Volume
160
2025.12
公益財団法人PHD協会

個人情報保護の為、
一部内容を伏せて掲載しています。
ご了承くださいませ。

特集
P. 9-10

おかげさまで「みんなのいえ」5周年！
～13か国48名を迎え、そして送り出した5年間～

みんなのいえ
国際協力・交流シェアハウス

PHD LETTER　Volume.160

Contents

P.1-4　ミャンマー大地震緊急支援報告
P.5-8　2025年度第41期研修生レポート
　P.5-6　ピューピューさん/ミャンマー
　P.7-8　ルビーさん/ネパール
P.9-10 みんなのいえ便り 5周年特集
P.11　居住支援事業報告
P.12　国内研修生 ユースキャンプ参加報告
P.13　2025年度26期国内研修生紹介
　2026年度ホストファミリー募集
P.14　PHD活動紹介　2025年7月～2025年10月
P.15　PHD News

表紙写真/国際協力・交流シェアハウス「みんなのいえ」の様子

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT
公益財団法人PHD協会

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげ、平和(Peace)と健康(Health)を担う人づくり(Human Development)をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年に今井鎮雄(初代PHD協会理事長)と共にPHD協会を設立しました。

PHD LETTER 160号
発　　行：公益財団法人PHD協会
住　　所：〒653-0836
　　神戸市長田区神楽町3丁目7-4
電　　話：078-414-7750
F　A　X：078-414-7611
E－mail：info@phd-kobe.org
U　R　L：http://www.phd-kobe.org/

ミャンマー大地震 緊急支援報告

事務局長 坂西卓郎、広報・啓発担当 井上遼香、居住支援担当 結城花菜＝文

進まない復興、「草の根の共助」という希望

マグニチュード7.7のミャンマー大地震から、半年が経ちました。研修生の多くが暮らすマンダレー、そして震源地のザガインでは、3,800人を超える命が失われ、約20万人が家を失いました。

8月に現地を訪ねた際、目の前に広がっていたのは、瓦礫のままの村々でした。崩れた家屋、放置されている多くの傷病者、頭が落ちている仏像も数多くありました——復興の手がほとんど届いていない現実に、言葉を失いました。

「公的な支援はほとんどありません。」そう語る現地の人々の声が、今も耳に残っています。中には、支援どころか空爆の被害まで受けている地域もありました。それでも、人びとは諦めていません。

皆さまから寄せられた温かいご支援が、村と村、人と人をつなぎ、小さな助け合いの輪を広げています。崩れた家の再建に協力し合い、孤立した地域に食料を届ける——その一つひとつが「草の根の共助」として、確かな希望となっています。

支援くださった皆さまのお力が、現地に生きる人々の勇気と希望を支えています。心より感謝申し上げるとともに、ここに活動の一端をご報告いたします。

食料支援・義援金配布

7月から8月にかけて被災地では引き続き食料支援と義援金の配布を行いました。マンダレーでは2回に分けて317人にお米と油を配布しました。震源地のザガインでは197人にお米と義援金を配布しました。ザガインへ向かうには軍の監視がある一本の橋を渡らなければなりません。危険を伴う中、モーママさん（2013年度研修生/2019年度短期研修生）は2度現地を訪れ、自分の目で被災状況を確かめ、ザガインにある僧院学校の先生たちと協力して配布会を実現しました。

●配布場所：
マンダレー中心地
●配布人数：317人
●配布内容：
一人あたり
お米と油70,000Kyat分
（約2,400円分）

●配布場所：ザガイン
●配布人数：197人
●配布内容：
一人あたり
お米20,000Kyat分
（約680円分）
義援金80,000Kyat
（約2,700円分）

モーママさんとはいつもビデオ電話で話しています。皆さんへコメントが届きました♪

皆においしいお米を食べてもらいたいので質の良いお米を選んで配布しました！ミャンマーではお米は命を支える主食です。「おいしいお米があれば、おかずが豆だけでも十分」と話す人もいます。「こんなにおいしいお米を食べるのはいつぶりだろう。本当にありがとうございます」と、涙ぐむ人の姿もありました。日本から支援してくれた皆さま、本当にありがとうございます！

支援活動詳細（2025年7月14日～10月31日現在）

※1円=29.2Kyat

日付	内容	金額（Kyat / 円）
7月14日	食料配布（177人）	13,230,000 Kyat / 約453,082円
7月16日	食料配布、義援金配布（197人）	20,140,000 Kyat / 約689,726円
7月26日	トイレ建設（1世帯）	900,000 Kyat / 約30,822円
8月17日	食料配布（140人）	10,300,000 Kyat / 約352,740円
8月23日	医療支援	43,724,080 Kyat / 約1,497,400円
9月8日	住宅再建（1世帯）	10,125,000 Kyat / 約346,747円
9月23日	シェアハウスプロジェクト ～アーロンイェエイ～	75,300,000 Kyat / 約2,578,767円

支援金の使途（2025年3月28日～10月31日現在）

区分	支出額（Kyat / 円）
食料支援*1	5,548,606Kyat / 約1,900,192円
義援金配布	41,946,004Kyat / 約1,436,507円
住宅再建*2	25,314,006Kyat / 約866,918円
医療支援	52,468,896Kyat / 約1,796,880円
シェアハウスプロジェクト ～アーロンイェエイ～*3	90,359,984Kyat / 約3,094,520円
支援活動経費	6,044,400Kyat / 約207,000円
合計	271,618,896Kyat / 約9,302,017円

＊1：食料支援の一部は、アーユス仏教国際協力ネットワーク様からのご寄付により実施しています。
＊2：住宅再建は、国際ロータリー第2680地区様からのご寄付により実施しています。
＊3：「アーロンイェエイ」はミャンマー語で「みんなのいえ」を意味します。シェアハウスプロジェクトは、コープこうべ様からのご寄付により実施しています。

紛争下の人々へ、命をつなぐ医療支援

MYANMAR

この度PHD協会は、国際NGOベアフット・ドクターズ・ミャンマー（BFDM）と協働し、紛争と災害の影響を受けた人々への医療支援を実施しました。BFDMは、林健太郎医師がミャンマーの仲間たちと共に設立した団体で、地震発生後には激震地ザガインに診療所を開設し、これまでに1,000件を超える医療支援を提供してきました。

支援の対象は、地震や紛争により負傷や疾病、心理的外傷を抱える最も脆弱な人々です。多くは障害があり通院が難しいため、医師たちは自ら村々を訪ね、訪問診療を行っています。治療には、**精神保健・身体リハビリテーション・心理社会的支援（MHPRPSS）**を組み合わせた包括的なアプローチが用いられています。

被災地では、脳梗塞の患者にも多く出会いました。地震による外傷だけでなく、水不足や強いストレスが原因で発症した例も見られました。村で取り残され治療を受けられず命を落とすしかなかった人々が、BFDMの訪問医療によって回復していく姿に立ち会うことができました。

現地では、モーママさんをはじめ元研修生たちとともに訪問しましたが、BFDMのスタッフやボランティアの皆さんが猛暑の中、一軒一軒丁寧に村を回り、ヒアリングと治療を続けている様子を目の当たりにしました。多くのボランティアの方々が手弁当で活動を続けていますが、それでも交通費や食費など必要経費は避けられません。

今回の支援により、この活動は今後1年間継続され、軽度介入500件、重度介入100件、最重度介入20件の医療支援が実施される予定です。光の届かない紛争地で、人々の命と希望を支えるこの活動が実現できたのは、会員の皆さま一人ひとりのご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

住宅再建支援

被災地を訪問し、現地の方々から話を聞いたモーママさんは、食料支援は行き届いているものの、人々が最も必要としているのは「住まいの再建」であると感じました。軍の厳しい監視が続く中、細心のリスク管理のもとで今回２軒の家を再建することになりました。本稿ではその２軒についてご報告します。

① 家族A（4人家族：夫婦と子ども2人）

▶職業：歌手
▶背景：地震で家が全壊し、家財や貯金も全て失った。地震直後は歌手の仕事もなく、収入を得ることが難しかった。
▶現在：政府からの建設許可が出ず、まだ着工できていない。歌手として稼いだお金を住宅再建のために貯金しており、PHDからの支援金とあわせて家を建てる予定。

家族Bからのコメント

地震で全てを失って落ち込んでいたけれど、PHDから大きなサポートを受け、前を向くことができました。本当にうれしいです。ありがとうございます。

② 家族B（6人家族：男性1人〔35歳〕、女性5人）

▶職業：男性は会社員、女性たちは自宅で小さな店を営む。
▶背景：地震前は自宅で商売をして生活をやりくりしていたが、地震で家が倒壊。商売が続けられなくなり、周囲の人の助けを受けながら簡易的な仮住まいで生活していた。政府からの支援もなく、自力で建てる資金もなかった。
▶現在：10月に家が完成し、自宅での商売も再開した。

被災後、政府からの支援がないミャンマーでは自宅の再建もままならず、知人の家に身を寄せたり、簡易的な住まいで暮らしている家庭が少なくありません。隣の家が倒れて自宅が倒壊してしまった方もいますが、それでも何の補償もありません。さらに地震の影響で収入の手段を失った人々は、再建の見通しすら立たない状況にあります。皆さまからの温かいご支援により、今回このような方々が再び安心して暮らせるよう支援を届けることができました。心より感謝申し上げます。

PHDミャンマー・シェアハウス構想　～アーロンイェエイ*～

上記の通り、これまでに2軒の仮設住宅を支援してきましたが、現地では今も支援を必要とする人々が後を絶ちません。また、大地震や内戦の影響によって土地を失い、町から村へと移り住む人も増えています。そうした中で、私たちは「誰もが安心して一時的に身を寄せられる場所」をつくることを目指し、PHDミャンマー・シェアハウス構想を進めています。現在ある場所に、避難や生活再建のためのシェアハウスを建設する準備を進めており、そこでは困難な状況にある人々を受け入れ、共に暮らしながら自立へとつなげていくことを考えています。この取り組みは、神戸でのシェアハウスの実践に学びながら、「助け合い」と「自立支援」が循環する新しい形のコミュニティを目指すものです。詳細については、今後改めてご報告いたします。

＊「アーロンイェエイ」はミャンマー語で「みんなのいえ」を意味します。

PHD 2025年度研修生レポート

My Little Sewing Shop

～耳の聞こえない人たちと一緒に働ける洋裁店を～

ルビーさん
ネパール

4月～10月ルビーさんの研修先

- 多機能型神戸長田ふくろうの杜（日本手話研修/神戸市）
- ボランティアの皆さんとPHD協会事務所にて（日本手話とひらがな・カタカナの学習/神戸市）
- 神戸女子洋裁専門学校（洋裁研修/神戸市）
- 高森るり子さん（洋裁研修/神戸市）
- 深田恵子さん（洋裁研修/神戸市）
- 山田幸夫さん（日本手話による交流/神戸市）
- 手話サークル明城会（日本手話による交流/明石市）
- 関西学院大学体育会柔道部（柔道研修/西宮市）
- 長田柔道会（柔道研修/神戸市）
- NPO法人西部ろうあ仲間サロン会、さろん食堂、手話サークル（日本手話による交流/鳥取県米子市）
- 社会福祉法人こうほうえん（ろう者就労研修/鳥取県米子市）
- 鳥取県立鳥取聾学校ひまわり分校（ろう者教育研修/鳥取県米子市）
- 公益財団法人鳥取県聴覚障害者協会・鳥取県西部聴覚障がい者センター（手話通訳/鳥取県米子市）
- 鳥取市ろうあ成人学級（ろう者教育研修/鳥取県鳥取市）

4月～10月の共通研修

- 丹波篠山市立篠山養護学校（福祉研修/丹波篠山市）
- NPO法人篠山国際理解センター（国際交流・多文化理解研修/丹波篠山市）
- 北村茂さん（柔道研修/丹波篠山市）
- 堀毛幸代さん（洋裁研修/丹波篠山市）
- たんなん子育てふれあいセンター（福祉研修/丹波篠山市）
- 一般社団法人みずほの家（福祉研修/丹波篠山市）
- 徳永順一郎さん（口腔衛生研修/川西市）
- 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター（防災研修・神戸市）

中国地方研修旅行　9月11日、12日

- 岡山大学（講演/岡山県岡山市）
- 岩国みなみワイズメンズクラブ（講演・交流会/山口県岩国市）
- 広島平和記念公園、平和記念資料館（平和学習/広島県広島市）

ルビーさんは生まれつき聴覚障害があり、12歳でバクタプルにあるろう学校に通うまで十分なサポートが受けられないまま学校生活を送っていました。ネパールでは聴覚障害者の就労機会が非常に限られており、ルビーさんもその例外ではありません。スキルを身につけるために、耳のきこえる生徒に混ざって洋裁のクラスに6ヶ月通い、努力を重ねました。神戸女子洋裁専門学校では手縫いの基本からミシンの扱い方まで、基礎を丁寧に学び、数多くの作品づくりを通して技術を身体に染み込ませています。洋裁学校のほかに、2人の先生から個人レッスンも受けています。高森さんとは、洋裁学校で学んだ知識を活かしながら、ルビーさんが作りたいシャツやエプロンを一緒に制作し、アドバイスやサポートをいただいています。一方、深田さんとは、将来ネパールで販売できる商品づくりを意識して、小物制作や編み物にも挑戦しています。

ルビーさんは、ネパールのカトマンズにある聴覚障害者のための柔道場で初代キャプテンを務めました。日本での研修を通じて、帰国後に聴覚障害のある子どもたちへ柔道の基本を伝えられるようになりたいと考えています。現在は、長田柔道会で小・中学生に混ざって基礎練習に励みながら、技術だけでなく柔道の礼儀作法も学んでいます。

どれほど疲れていても決して手を抜かず、常に前向きな姿勢で研修に臨むルビーさんは、一つひとつの技術を着実に身につけようと励んでいます。そして将来は自分の洋裁店を開くという夢に向かって、一歩ずつ着実に歩みを進めています。

研修担当　内堀友晴＝文

REPORT

So far, I have studied at Kobe Dressmaker School and trained at Nagata Judo Kai etc…
I'm enjoying my time in Japan. In Japan, the Kobe Dressmaker School teaches well-hand sewing. strict, clean, taught step by step with good methods and we sew slowly and carefully each day In Nepal, the dressmaker training is not very strict, the tools are simple and so we sew more quickly.
The Nagata Judo Kai trains in judo, and it's important to respect your partner by bowing before and after pratice.
I was suprised that many people study japanese sign language in Japan. so many people can talk with Deaf people in Japan. It is so nice. After returning to Nepal, I want to teach dressmaking and judo to deaf people using the training methods I learned in Japan. So I will do my best in my studies until March of next year.

Ruby / Nepal

研修を手話で語る
ルビーさん

SCAN HERE!

https://youtu.be/KejzR3Xz4fk

＜翻訳＞

私は神戸女子洋裁専門学校や長田柔道会などで研修を行っています。日本では楽しい時間を過ごしています。洋裁学校では先生たちがよく教えてくれます。手縫いの方法はとても丁寧であり正確で、ゆっくりと教えてくれます。私も毎日着実に丁寧に手縫いすることを心がけています。ネパールの洋裁学校は丁寧さや正確さよりも迅速さを求められ、洋裁の道具はとてもシンプルです。長田柔道会では練習の前後にお辞儀をして互いに敬意を示します。相手を尊重する姿勢の大切さを学んでいます。日本では多くの耳のきこえる人が手話を学んでいることに驚きました。たくさんの人が手話で聴覚障害者と交流していることはとても良いです。ネパールに帰ってから日本で学んだ洋裁や柔道の技術を聴覚障害者に教えていきたいです。そのために3月の帰国までに精一杯研修を頑張ります。

丹波篠山市での柔道研修にて。
背負い投げをするルビーさん。

神戸女子洋裁専門学校でドレス制作に取り組むルビーさん。
1mmのずれもないよう真剣に作業しています。

鳥取県立鳥取聾学校ひまわり分校を
見学したルビーさん。

国際協力・交流シェアハ

みんなのいえ 国際協力・交流シェアハウス

祝5周年

「みんなのいえ」から巣
みなPHDの大
在住外国人の未来を隣人

「みんなのいえ」で共に過ごした5年

2020年5月、長田の地に移る以前から外国人シェアハウス設立はPHD協会の希望であった。時間をみつけては物件を歩いて探した。シェアハウスに関しては素人だったが、理事会、職員間での議論を積み重ね、3階建ての小さな家を契約した。

たった四つの部屋に201号室や301号室と名前をつけた。これでは入居出来るのはたった4人かと思われたが、各部屋に二段ベッドを組み立て9人までが入居可能となった。同年10月のことである。

研修事業から居住支援事業への展開は、手探りに次ぐ手探り。困難を抱える外国人が直面する課題は在留資格、住居、仕事、保証人など多岐にわたり、これまでの研修事業のノウハウだけではとても対応できない新事業であった。

部屋が満室の時は、ひとつしかない風呂から1階に水が漏れ天井が抜けた。何度も話し合いを重ねても台所は綺麗にならず、ゴミ問題にも悩まされた。楽しい事ばかりでは決してないシェアハウスの運営だったが、世界各国からの入居者の笑い声がいつも響いていた。

5年の歴史は、疑いもなく困難を抱える外国人をひとりひとり丁寧に送り出してきた歴史であり、この寄り添いは他には真似のできないものであると自負している。これまでの入居者はベトナム、インドネシア、ネパール、ヨルダン、コンゴ民主共和国、台湾など13か国から48名を数える。次のステップへと送り出した退去者と細く長く連絡をとるのは施設長として特に大切にしていることであり、それ故に現状を知らせてもらうことは何よりも嬉しく、シェアハウスを運営していて良かったと心から思える瞬間である。巣立って行った人たちもみなPHDの大切な家族だ。もう5年、まだ5年。在住外国人の未来を隣人として支えていきたい。

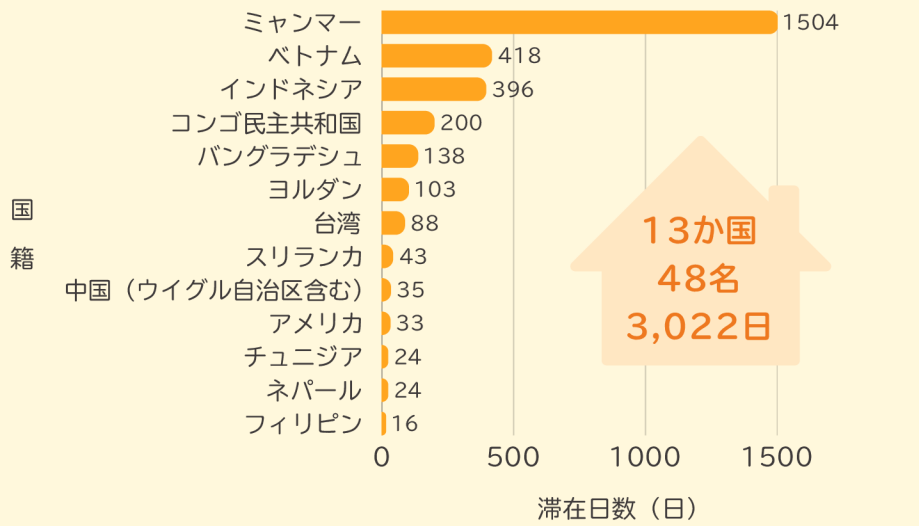
みんなのいえ施設長 濱宏子＝文

日本語指導の様子

食料支援の様子

就労のアドバイスをする様子

みんなのいえ 入居者の国籍別・滞在日数（2025年10月31日現在）



皆さまからのご支援は「みんなのいえ」の光熱費や食費等に使用させていただきます

マンスリーサポーターのご登録はこちらから →

ウス「みんなのいえ」便り

！特集

立って行った人たちは
切な家族。
として支えていきたい。

Aさんとインドネシア出身の入居者たち

自立した歩みの事例 Aさんの場合

① うつむいた青年との出会い

ミャンマーのカチン族であるAさんに初めて会ったのは2021年冬のこと。生きることを諦めたようなうつむきがちな青年だった。「社会の役に立たない」自分を卑下していた。2015年に留学生として来日。卒業後に仕事がなく、たった1日のオーバーステイで入管に1年8か月収容されてしまう。

② 仮放免下の暮らし

その後仮放免され、間借りしていた狭い部屋には布団1枚を敷くのがやっと。電子レンジだけで料理する暮らし。そんな部屋で私たちは彼の半生について話を聞いた。仮放免とは、オーバーステイや非正規滞在などで出入国在留管理庁の施設に収容されている外国人が、一時的に拘束を解かれることだが、働くことはできない。

③ 「みんなのいえ」という新しい居場所

PHD協会は約半年間、Aさんに食料支援を続けた。2022年5月やっとそれまでの家を出てみんなのいえに引っ越すことが出来た。それから約1年間Aさんはみんなのいえの管理人とも言えるほどに掃除をし、ボランティアとして仕事を手伝い、他の入居者を気にかけてくれた。「PHDに拾ってもらって今の自分がある」と感謝の気持ちを常に表し続けた。

④ 自分の力で前へ

就労が認められる人道配慮による特別在留許可が交付され、飲食店でのアルバイトが決まり、初めて給料を手にすることが出来た2023年、紆余曲折あったがたくさんの人の支援を得てついに自分のアパートに引っ越しが決まった。貯金も少し出来た。そしてその後介護の仕事に従事。現在は自立してしっかりと生きている。Aさんは今もPHD協会と親しく交流があり、近年は大学生にその経験を伝える講演を行うほどだ。努力と感謝の気持ちは必ずや実を結ぶという好事例である。

入居した時のAさん

履歴書を作成するAさん

現在のAさんの声

今楽しいと思えることは、
自分の力で家賃が払えること！

PHDに住んでいた時は、お金はなかったが
食料に困ることがなく安心で、何より大勢
でご飯を食べることが嬉しかった！

民族衣装を着たAさん

★マンスリーサポーター限定★
月1オンライン報告＆交流会を開催！
みんなのいえの様子をお伝えします。

初回は
12月25日♪
※詳細はメールで
お伝えします。

居住支援事業報告

PHD協会では、生活にお困りの外国人の方を対象に居住支援や就労支援、日本語学習支援、生活相談、食料支援などを実施しています。困窮度の高い難民申請者や仮放免中の方など、先が見えず不安定な状況にある外国人を中心にサポートを行ってきました。本稿では下記二つの活動についてご報告します。

居住支援担当 結城花菜＝文

01 相談事例の紹介

―基本情報―

名前：イザベルさん（母）、そらくん（息子・中学生）

国籍：フィリピン(母)、日本（息子）

在留資格：定住者

―支援内容―

- みんなのいえ入居
- 生活保護申請のため区役所同行
- 食料支援
- 不動産業者への同行

―相談までの経緯―

日本人の夫と死別し、シングルマザーとして息子を育てる。
親戚の家に身を寄せるも事情によりそこを離れる。その後長男の家に身を寄せたが、長男との関係性が悪化し、約1週間行き場のない状態になる。
フィリピンネットワークで某支援団体に助けを求める。支援団体の紹介でみんなのいえに入居。

―現在の2人―

新しい住居が決まり、引っ越しに向けて準備を行っている。

02 食料配布会の実施

食料配布会は毎月1回実施し、計7回延べ480人の外国人の方に食料を配布しました（2025年4月～2025年10月末）。初めて参加したミャンマー出身のSさんは、「アルバイトが見つかるまでの間、食料がなくて困っていたから助かります」と話してくれました。配布会には当会のインターン生やボランティアの方々も参加しており、食料の受け渡しだけでなく、参加者同士の交流の場になっています。

国籍	ネパール	ウクライナ	バングラデシュ	ミャンマー	スリランカ	韓国	ベトナム	チュニジア	ガンビア	中国
4月	42	5	5	6	4	1	0	0	0	0
5月	79	7	2	0	1	1	0	0	0	0
6月	53	5	3	3	1	1	0	1	1	0
7月	32	4	1	0	3	1	0	0	0	0
8月	59	3	0	2	2	1	0	1	0	0
9月	78	3	2	6	0	2	3	1	0	0
10月	32	4	10	4	2	1	0	0	1	1
合計	375	31	23	21	13	8	3	3	2	1

（単位：人）

食料配布会の様子

11月の食料配布会に参加した
インターンとボランティアの皆さん

※本事業は神戸市福祉局くらし支援課の食支援を通じた相談支援に取り組む民間団体に対する補助金、2025年度公益信託神戸まちづくり六甲アイランド基金の助成を受けて実施しました。

PHD「ACTION from KANSAIつながる・学ぶ・変えるユースキャンプ2025」国内研修生2名が参加しました！

認定非営利活動法人関西NGO協議会が、国内外の社会課題に関心を持つ若者たちを対象に、ともに学び・考え・行動する2泊3日のトレーニングキャンプを開催しました。PHD協会からは、2025年度国内研修生の関谷と武部がこのユースキャンプに参加させていただきました。関西から国際協力の輪を広げる人材を育てることは、PHD協会が大切にしている取り組みのひとつです。今回、このような学びの機会を国内研修生に与えてくださったことに、関西NGO協議会の皆さまへ心より感謝申し上げます。以下では、トレーニングキャンプの内容と、参加した国内研修生2名の感想をご紹介いたします。

●日程：2025年9月13日～15日
●会場：神戸しあわせの村
●対象：国際協力・社会課題に感心のある高校生～大学院生世代
●目的：「誰一人取り残さない社会」の実現を目指すという理念のもと、国際社会や社会問題・課題に取り組む若者世代の理解と行動力を高める。

「アクションによって広がる選択」

武部 澄佳

サポートメンバーのみなさんが辿ってこられた道や想いを聞くことができた2日目の朝。その中で、自分の専門分野を活かし社会問題に向き合われている方のお話を伺いました。私は大学で保育・幼児教育を専攻しており、これから目指す先が「保育職か国際協力か」で迷っていました。しかし、保育と国際協力を掛け合わせたとき、“社会的マイノリティにあたる子どもの居場所づくり”や“取り巻く環境への支援”など、保育を専門とする私らしい国際協力の形があることに気付き、視野が大きく広がりました。また、真剣な眼差しを持ちながらも楽しんで活動されているみなさんの姿が、率直にかっこよく、私もこうありたいと強く思いました。この想いを力に変え、Actionを起こし続けることを大切にしていきます。

「出会いが私を動かす ――ユースキャンプで見つけた“学びの縁”」

関谷 実代

ユースキャンプで一番強く感じたのは、他者とつながりながら活動を続けることの大切さです。今回のキャンプでは、たくさんの大人の方々が2泊3日、私たち高校生・大学生に本気で関わり、寄り添ってくださいました。その中で、さまざまな人の抱える想いや葛藤を、飾らずに聞いたり話したりする時間がありました。自分ひとりでは乗り越えられないことも、誰かとつながることで新しい縁が生まれ、自分の視野が広がることを実感しました。また、自分の活動を続けていくうえで、思いだけで突っ走るのではなく、自分を見つめ直す時間を持つことの大切さにも気づきました。これまで大学生活で取り組んできたさまざまな活動が、点と点が線でつながるような感覚があり、とても貴重な機会になりました。

2025年度26期国内研修生紹介

パワニ カウヤ
セウミニ ジャヤコディ

自己紹介

はじめまして！スリランカから来ましたパワニと申します。叔父さんが日本語を勉強している姿を見て、日本語に興味を持ちました。スリランカでは高校の選択科目で日本語を勉強していました。現在は神戸住吉国際日本語学校で日本語を学んでいます。日本の大学進学を目指しています。また将来は、スリランカで日本語の先生になりたいと考えています。PHD協会のインターン生と出会い、日本語指導を受けることで自身の日本語に自信を持てるようになりました。至らぬ点も多々ありますが、だれかの力になる人になれるよう精一杯頑張ります！どうぞよろしくお願いいたします。

日本の大学生と交流するパワニさん

他己紹介　総務・ファンドレイジング担当　中村朱里

スリランカ出身のパワニさんは神戸市内の日本語学校で勉強中。ロータリーよねやま親善大使である僧侶・スマンさんのご紹介で、私たちと繋がりました。現在は「みんなのいえ」に滞在しながら、日本語の勉強に励んでいます。日本語能力試験を12月に控えて夜中まで勉強する真面目で努力家な一方、明るく大きな笑顔が印象的。国内研修生として多様な人たちとの交流を重ね、その笑顔もぐんと増えました。将来の夢は日本語教師。夢に向かって進む姿をこれからも応援しています！

短期間も大歓迎！2026年度ホストファミリー募集！

期間

A.長期間

2026年4月～2027年3月中旬の約1年間（ソーソーさん）
2026年4月～2026年7月末までの約４か月間（ヤミンアウンさん）

B.短期間

「ホームステイを一度試してみたい」という方を募集しています。週末のみやお盆などの長期休暇期間、その他の数日～1か月程度の受け入れも可能です。

応募条件

当会事務所（神戸市長田区）から公共交通機関を利用して1時間以内で通える範囲にお住まいのご家庭。

経費

当会規定に基づき食費、滞在費をお支払いします。その他、交通費、医療費などは基本的に当会が負担します。

PHD活動紹介　2025年7月～2025年10月

7月

1日　アーユス主催「仏共講座」　事前打合せ
2日　2025年度「連合・愛のカンパ」　面談
　芦屋浜ロータリークラブ移動例会　講演
3日　PHD協会　食料配布会
5日　神戸YMCA国際委員会　参加
　2025すばる学習会「国際交流 ネパールのろう者と交流しよう」　参加
11日　川西ロータリークラブ例会　参加
14日　NGO神戸外国人救援ネット運営委員会　参加
　神河町コンサルテーション（タブコラ）
15日　兵庫県立伊丹高等学校　講演
16日　HYOGON運営委員会　参加
17日　フードバンク関西　食品受取
　2026年度ミャンマー研修生選考会
18日　多文化共生の担い手・実践者全国会議2025　打合せ
23日　PHD協会　定例会議
　ひょうごコミュニティ財団選考委員・役員等意見交換会　参加
24日　アーユス主催「お寺と多文化共生」　講演
25日　関西NGO協議会成田さん　来訪
26日　2025-26 年度米山記念奨学セミナー　参加
28日　JANIC多文化共生の担い手・実践者全国会議2025　講演
29日　多文化共生のための開発教育・国際理解セミナー　打合せ
30日　PHD協会　ハラスメント相談員面談
31日　篠山国際理解センター訪問（タブコラ）

8月

1日　第1回社会福祉×多文化共生勉強会（タブコラ）
2日　多文化共生のための開発教育・国際理解セミナー　参加
4日　多文化共生のための開発教育・国際理解セミナー（～5日）　参加
　神戸市暮らし支援課食支援団体交流会　参加
5日　アーユスオンラインセミナー「ミャンマー中部地震 届く支援とは？」　参加
6日　関西学院大学教育学部フィールドワーク　講演・交流会
　芦屋ロータリークラブ例会　参加
7日　川西市社協多文化共生調査研究チームミーティング（タブコラ）
　PHD協会　食料配布会
8日　川西ロータリークラブ例会　参加
9日　ひょうごコミュニティ財団助成部会　参加
19日　PHD協会　ミャンマー出張（～26日）
　川西市社協Canva研修（タブコラ）
22日　フードバンク関西　食品受取
26日　ひょうごコミュニティ財団理事会　参加
28日　高校生1名　来訪
29日　PHD協会　定例会議

9月

3日　NGOインターン・プログラムキャリア形成セミナー事前説明会　参加
4日　PHD協会　食料配布会
　彩星工科高等学校３年生　来訪
5日　ひょうごコミュニティ財団助成部会　参加
8日　NGO神戸外国人救援ネット運営委員会　参加
9日　大阪YMCA小川総主事　来訪
　2025年度（令和7年度）第1回ひょうごん福祉ネット例会　参加
11日　PHD協会　中国地方研修旅行（～12日）
13日　川西ロータリークラブ 鶏&松茸すき焼きの会　参加
　関西NGO協議会主催「ACTION from KANSAIつながる・学ぶ・変えるユースキャンプ2025」（～15日）　参加
16日　2026年度ミャンマー研修生選考会
17日　メタファシリテーション研修　参加
　2023－25年度よねやま親善大使スマンさん　来訪
18日　2026年度ミャンマー研修生選考会
　フードバンク関西　食品受取
19日　神戸市地域協働局地域活性課主催 「成功事例に学ぶ個別相談付き広報セミナー」　参加
　川西ロータリークラブ例会　参加
20日　国際ロータリー第2680地区米山記念奨学委員会奨学生ミーティング　参加
22日　PHD協会　定例会議
23日　NGOインターン・プログラム キャリア形成セミナー（～27日）　参加
25日　関西学院高等部　講義
27日　若人の賞贈呈式　参加
29日　神河町対象丹波市視察研修（タブコラ）

10月

1日　神河町職員研修打ち合わせ（タブコラ）
　梅光学院大学サービスラーニング　オリエンテーション
　芦屋ロータリークラブ卓話　講演
2日　PHD協会　食料配布会
　アーユス主催 『いま「外国人」支援をするということー「NGO新人賞」受賞者に聞く』　参加
3日　大学コンソーシアムひょうご神戸主催 「MYANMAR震災から半年を振り返る」　参加
　川西ロータリークラブ卓話　講演
4日　ひょうごコミュニティ財団市民活動大交流会　参加
6日　第2回社会福祉×多文化共生勉強会（タブコラ）
7日　ひょうごコミュニティ財団助成部会　参加
　兵庫県立明石城西高等学校　講演
8日　高砂青松ロータリークラブ卓話　講演
10日　2026年度ミャンマー短期研修生選考会
13日　移住連主催「移民社会の未来をひらく～NPO法人移住連10周年シンポジウム～」　参加
14日　HIA訪問（タブコラ）
16日　神戸市地域協働局地域活性課主催「成功事例に学ぶ個別相談付き広報セミナー」　参加
　ルビー洋裁指導者　深田さん　来訪
　県立丹波医療センター訪問、丹波市ネットワーク会議（タブコラ）
17日　フードバンク関西　食品受取
19日　ネパール虹の家10周年記念報告会　参加
20日　NGO神戸外国人救援ネット運営委員会　参加
　神河町職員研修 講師打合せ（タブコラ）
　神戸マツダ　訪問
21日　PHD協会　半期振り返り会議
22日　篠山ロータリークラブ卓話　講演
23日　大阪YMCA評議員会　参加
　関西学院大学教育学部　講義
27日　JANIC多文化共生WG10月会合　参加
28日　ひょうご居住支援法人連絡会「きずな」研修会　参加
　運営協力委員　森口育子さん　来訪
31日　ひょうごん居住支援部会　参加

PHD News

株式会社神戸マツダ様より活動車両をご寄贈いただきました！

この度、株式会社神戸マツダ様より、マツダビアンテ（8人乗り）1台をご寄贈いただきました。11月22日には、神戸マツダ本社にて贈呈式が開催されました。神戸マツダ代表取締役会長・橋本一豊様には、長年にわたりPHD協会の顧問として多大なお力添えを賜り、2013年以降、これまでに2台の活動車両をご寄贈いただいております。今回で3台目となる継続的なご支援に、改めて深く感謝申し上げます。

2018年にご寄贈いただいたビアンテは、総走行距離およそ20万キロに達しました。研修生たちが全国各地の研修や交流会へ安全に向かうことができたのは、この車が常に支えてくれていたからこそです。今回ご寄贈いただいた新たなビアンテも、これから多くの研修生を乗せ、全国を駆け抜ける相棒となります。

長年にわたり変わらぬご厚情とご支援を賜っておりますことに、心より御礼申し上げます。

ルビーさんコメント

車が新しくなって、研修も新しい気持ちで今まで以上に頑張りたい。聴覚障害者の女性のために頑張ります。車の乗り心地がとても良くて嬉しい。長距離の移動も多いので、この車なら新しい気持ちで研修に臨むことができます。

～遺贈寄付をご検討の方へ～

最近、遺贈寄付のご相談を数件お受けしました。もしご検討の方や制度にご不明点がある方はPHD協会までご連絡ください。遺言書作成の際に活用できる助成金制度や専門家のご紹介も可能です。（担当：坂西）

電　話：078-414-7750
メール：info@phd-kobe.org

みんなのいえで心に残った出来事 ○月×日のPHD協会

パワニ　ここは皆がいるから寂しくない。スリランカでは一人が好きだったけど、今は反対。これは私にとっていいこと。トイレ掃除も初めて経験し、一人で生活する力がついてきた。

濱　過酷な漁船の労働から逃げてきた技能実習生のインドネシア人Y君。うまく転籍が実現し、自分が釣ったという新鮮なイカを送ってくれた。箱にはインドネシアと日本の国旗が。感激。

結城　アフリカからの難民申請家族、初めて子ども連れで入居。当時2歳の男の子が階段から落ちないように慌ててゲートを購入。今やわんぱく少年に。

坂西　ある日、警察経由で入居したアメリカ人Aさんが倒れているのを発見。慌てて救急車を呼ぶ。「あと少し遅れていたら危なかった」と医者。肝を冷やす。

中村　インドネシアのSさん、特定技能パワハラ組。所持金も住まいも仕事もない。今後の見通しも立たない状況での満面の笑顔と優しさに頭が下がる。

上から、冬なのに半袖でいける強者順。

2025年度第41期研修生 帰国報告会のご案内

下記のとおり2025年度研修生たちの帰国報告会を行う予定です。
1年の学びや、地域に戻ってからの活動計画などを発表いたします。
お問い合わせの上、ご参加ください。

＊----------＊
日時：2026年3月7日（土）
　　14：00～16：30（予定）
場所：決まり次第お知らせいたします。
参加費：無料
＊----------＊

◆お問い合わせはPHD協会まで◆
TEL：078-414-7750
E-mail：info@phd-kobe.org

各種SNSはこちらから→